

## 教職員のコーナー

## 人との出会いから

学校警備員 朴 乙守

何年か前、中学部の体験旅行の下見で、先生達と一緒にモッポというところへ行ってきました。このモッポというチョンラ道という地方は食べ物が美味しいところとして、韓国でも有名です。特にビビンパの美味しいところとして全国的に名を知られています。

さて、その下見の目的はモッポにある共生園という施設を訪問することでした。この施設は以前説明した事もあるのでご存知の方も多いかと思いますが、両親がいない子ども達、または何らかの事情で両親とは一緒に生活できない子ども達が共同で生活するための施設です。

当時モッポ共生園では129名の子ども達が生活していました。その中には身体の不自由な子どもも何人かいましたが、皆とても明るい表情をしていたことが今も心に残っています。共生園の子ども達は入園してから高校や大学を卒業するまで、ここで暮らすのだそうです。129名ものたくさんの子ども達が生活するため、お金もたくさんかかりますが、多くの人々からの寄付で運営できているのだそうです。日本からも援助があるのだとおっしゃっていました。

私たちが共生園を訪れたとき、園長先生をはじめ、そこで働く先生方が本当に温かく出迎えてくれました。私たちの訪問に当たってのお願いにも嫌な顔ひとつせず、快く引き受けてくれました。

また、園長先生はお若い方で、お父さんのしごとを引継いで、今のお仕事をなさっているとのことでした。先生は、ソウルなどで勉強をされた後、日本の大学へ留学され、お父さんの仕事を手伝うためにモッポへ戻られたそうです。まだお若いにもかかわらず、自分のことではなく、子どものことを一番に考え、仕事をなさっている姿を見て、とても感心した事を覚えています。

今でも、あの温かな人間味や感動に出会えた、あのモッポでの1日を思い出すことがあります。みなさんも、これから様々な場所で、色々な人と出会い、色々な体験をしていくと思います。そうした中で、私がモッポで体験したように、人との出会いから、温かさや感動を感じてほしいと思います。また、私を含め、周りにいる人たちとの日常からもたくさんのことを学んでほしいと思います。人との出会いを大切にしましょう。

(ネリサラン)はあっても  
(チサラン)はない

学校事務員 姜 姫銀

この前、旅行のとき「韓国の子達は親に感謝しなければなりませんよ。」とガイドさんから何回も言われました。そのガイドさんは観光地の案内だけではなくその国の親子関係なども説明してくれましたが、その話から私も自分の親のことを顧みることができました。

韓国人は生まれてから教育、進学、就職、結婚、そして子どもの出産に至るまですべてのことが親の下で成り立つと言っても過言ではありません。親は若いときには子どもの教育のために働き、中年になっては子どもの結婚に力を入れ、最後にはなるべく多くの遺産をゆずろうとする... それをおかしいことではないと思っていた私は「あなたも自分の子どもと同じことができますか。」と質問され、何とも返事できませんでした。また自分の人生を楽しむ他国の親達を見てうちの親が哀れに思われました。

韓国語には『 (ネリサラン)はあっても

(チサラン)はない』という言葉があります。「ネリサラン」というのは子に対する親の愛を、「チサラン」というのは親に対する子の愛を意味する言葉で、『親が子を愛するほど子が親を愛することは難しい』ということを表す表現です。この表現をよくあらわした話を紹介します。

昔、ある貧乏な家庭のお母さんが、食事のとき魚のおかずがあったら栄養のある身は息子に取ってやり、自分はいつも魚の頭を食べました。それを不思議に思った息子は「お母さん、お母さんはどうして魚の頭ばかり食べるの。」とお母さんに聞きました。お母さんは微笑みながら「お母さんはお魚の頭がおいしくて、好きなのよ。」と答えました。

それから時間が経って息子は大人になり、結婚もしました。ある日、お母さんは友達と遠足に行くことになって、お嫁さんはお母さんのためにお弁当を作りました。お母さんはそのお弁当を大事にし、ずっとお昼時間になってお弁当をあけました。するとお母さんと周りの友達はびっくりしました。お弁当には魚の頭がたくさん入ってあったのです。お弁当を作る前にお嫁さんがだんなさんにお母さんの好物を聞いたら、だんなさんは昔に魚の頭が好きだとお母さんに言われたことを思い出したのです。お母さんもそのことに気づいておいしくお弁当を食べました。息子は自分においしいものを食べさせようとしたお母さんのころまではわからなかったのでしょうか。

この話からみても『親が子を愛するほど子が親を愛することは難しい』かも知れません。しかし、このような親のこころを理解し、わかろうとする気持ちだけでも親は喜んでくれるのではないのでしょうか。たまには親の立場になって考え、親のために自分が何ができるのかを考えることも大事なことでないでしょうか。